

Title	和歌山県白浜町番所崎に打ち上がった比較的大形のイガイ(二枚貝綱, イガイ科)の貝殻
Author(s)	久保田, 信
Citation	かいなかま (2018), 51(2): 25-25
Issue Date	2018-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/232578">http://hdl.handle.net/2433/232578</a>
Right	発行元の許可を得て登録しています.
Type	Article
Textversion	publisher

## 和歌山県白浜町番所崎に打ち上がった 比較的大形のイガイ(二枚貝綱, イガイ科)の貝殻

久保田 信

Relatively large shell of *Mytilus coruscus* (Bivalvia, Mytilidae)

washed ashore at Banshozaki in Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

Shin Kubota

二枚貝類イガイ科に属するイガイ *Mytilus coruscus* Gould, 1861 (Bivalvia, Mytilidae) は、北海道から九州の潮間帯から水深20mの岩礁に生息する(黒住, 2017)。本種は瀬戸内海では潮通りのよい所に群生し、食用ともされており、筆者も今から半世紀以上も前の幼少時、郷里の愛媛県松山市の三津の朝市で両親が購入したものを、吸い物などにして家族一同で食べた思い出がある。

筆者は20年余りにわたり、和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所付近の番所崎や実験所“北浜”・“南浜”への生物の打ち上げ調査を日々実施しているが、これまでの本定点調査区域での本種の貝殻や死亡個体などが打ち上げ記録はわずかしかなかった(久保田・小山, 2002; 久保田, 2015)。

当該調査区域では稀少例となるイガイの貝殻が、2017年11月25日、番所崎洞門のすぐ西側の磯に打ち上げられており、しかも、これまでで最大のもの(前後軸長120mm: 図1)であったので記録する。本貝殻は片側しかなかったが、殻の周辺はエゾイガイに見られる様な細かな刻みが全くなく、内面の真珠層には光沢があり、厚質であった。しかし、殻頂は鷲鼻様に曲がってはおらず、むしろ外見はムラサキイガイに類似していた。



図1. 和歌山県白浜町番所崎の洞門の西側の磯に打ち上げられたイガイの貝殻。

### 引用文献

- 黒住耐二 2017: イガイ科. 奥谷喬司(編著)日本近海産貝類図鑑, 第二版, pp. 516, 1172-1173. 東海大学出版会, 東京.
- 久保田 信・小山安生. 2002. 番所崎, 特に“北浜”(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録(2). 南紀生物, 44(2): 133-139.
- 久保田 信. 2015. 和歌山県白浜町番所崎に打ち上がったイガイ(二枚貝綱, イガイ科)の新鮮な死亡個体. 南紀生物, 57(1): 70.